

令和5年度 学校評価 学校関係者評価書

学校名	三木市立 吉川小学校
-----	------------

1 学校教育目標

心豊かに たくましく 学びを深めあえる子の育成 ～ ふるさとを愛し 夢を育む 学校づくり ～

2 本年度の重点目標

- | | |
|------------------------------------|---|
| (1) 児童一人一人に応じた豊かな学びを継続する。 | (2) 心の通い合う学校づくりを通して、心豊かな人間性の育成に努める。 |
| (3) 健やかな心と体を育て、たくましく生き抜く力を身に付けさせる。 | (4) 認め合い、支え合う特別支援教育の推進 |
| (5) キャリア教育の推進 | (6) 組織力を高め教職員の勤務の適正化に向けた取組を推進し教育活動のさらなる充実を図る。 |

3 自己評価結果

(アンケート結果による達成基準 : 4 よくあてはまる 3 大体あてはまる 2 あまりあてはまらない 1 あてはまらない)

※アンケート結果の3と4の肯定的評価を計上している。

【 A:達成している(アンケート等の結果80%以上達成) B:概ね達成している(70%~80%以上達成) C:あまり達成していない(60%~70%以上達成) D:達成していない(60%未満)

評価項目	今年度の最重要評価項目 (1つまたは2つ)	取組(達成)の状況		評価	総合評価	改善の方策
		対象者	評価指標・評価方法等 (質問紙調査を実施)			
学習指導	○ICTを活用するなど、一人一人に応じた学びに取り組み、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を目指す ○自主学习を習慣化し、自ら学習に取り組もうとする力を育む	児童	○授業中、進んで発言したり、話し合いをしたりするなど、主体的に学習に取り組んでいるか。⇒児童用アンケートで80%を達成する。 ○自主学习に進んで取り組んでいるか。 ⇒児童用アンケートで80%を達成する。 ⇒71.3%	B	B	・日々の授業に取り組む中で、グループや全体で発言する場をつくったり、学年に応じた話し合い活動を授業に取り入れながら授業改善を行ってきた。自主学习も含め、主体的・対話的で深い学びを実現するために授業改善に取り組んでいきたい。 ・タブレットを活用した授業や個別最適な学びに取り組めるように授業を改善したり、研修に取り組んだりした。 ・宿題の出し方を工夫したり、自主学习の取り組み方を例示したりすることで、家庭学習の習慣をつけ、宿題や自主学习に取り組もうとする意欲を育てるための改善が必要である。
		教職員	○ICTを活用するなど、個別最適な学びに取り組めたか。 ⇒教職員用アンケートで80%を達成する。 ⇒92.9% ○主体的、対話的で深い学びを実現するための授業改善ができたか。 ⇒教職員用アンケートで80%を達成する。 ⇒100%	A		
		家庭や地域との連携	○音読や自主学习など、日々の家庭学習を主体的に取り組んでいるか。 ⇒保護者用アンケートで80%を達成する。 ⇒66.3% ○子どもたちは授業をわかりやすいと話しているか。 ⇒保護者用アンケートで80%を達成する。 ⇒78.5%	B		
道徳教育	○子どもの多様な意見を受け止めたり、お互いの意見を尊重したりする温かい授業づくり	児童	○道徳の授業の中で、道徳的課題について自分の考えを持ったり、意見の交流をしたりする事ができているか。 ⇒児童アンケートで80%以上を達成する。 ⇒89.3%	A	A	・道徳の授業では、多様な意見を認め、児童が発表しやすい環境づくりに努めた。 ・クラスや学年に応じ、児童が「考えたい」「発言したい」と思える「発問」を徹底的に工夫した。 ・特別支援学級在籍の児童も一緒に取組めるように、教材をICTを活用しわかりやすくなるよう表示して読み上げた。 ・親子で教材を読んで考える課題に、延べ164名(95%)の保護者が親子で取り組む事ができた。3年生以上が対象だったが、1・2年生の親子も自由課題として取組んで頂き、参加率は延べ124%となった。
		教職員	○子どもが多様な意見を言える授業づくりに取り組む事ができているか。 ○子どもの道徳的価値に関する考えや、成長を捉える事ができているか。 ⇒児童アンケートで80%以上を達成する。 ⇒100%	A		
		家庭や地域との連携	○家庭で道徳教材を読む機会を設け、親子で考える教材などに取り組む。 ⇒保護者参加率80%を達成する。 ⇒71.6%	B		
人権教育	○人権の啓発を通じた、多様性の尊重と自尊感情の育成	児童	○自分や友達の良い行いに目を向け、自尊感情を高め合うことができたか。 ⇒児童アンケートで80%以上を達成する。 ⇒91.5%	A	A	・全校放送で、普段の生活の中で見られた児童の良いところを教員から発信し続けた。また、児童から友達や自分のよいところを見つけ、メッセージを書く活動を行ったが、延べ600枚以上のメッセージが寄せられている。その中で、これまで気づけなかった友達や自分の良さに気づける児童が増えている。今後は、児童主体の活動にしていく予定である。 ・今年度も、保護者と児童と一緒に聞ける人権講演会を開催したことで、親子で人権について考える機会を持つ事ができた。親子人権学習参加の内容については、今後PTA等とも相談し、更に充実したものにしていきたい。
		教職員	○子どもの良い所を見つけ、それを子ども達に伝える事ができたか。 ⇒「吉川っこ人権の小窓」放送の実施。 ○同和教育、人権教育などの研修を受講し、人権意識を高める。 ⇒年度内に2回以上受講する。	A		
		家庭や地域との連携	○親子人権学習、親子人権週間、人権講演会に参加したか。 ⇒保護者出席率80%以上を達成する。 親子人権学習(87.7%)、親子人権週間(95%)、人権講演会(39%)	B		
特別支援教育	○一人一人の多様な教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実	児童	○友達一人一人の違いを大切に、互いに助け合える人間関係ができているか。 ⇒児童アンケートで80%以上を達成する。 ⇒97.9%	A	A	・児童一人一人の違いを大切に、互いに助け合える人間関係を構築できるように定期的な会議を通じて、全職員で児童理解を図り、支援や適切な指導について十分に時間をかけて話し合った。また、必要に応じてケース会議を開いた。 ・外部講師を招き、通常学級における合理的配慮についての研修を行い、日々の教育活動に取り入れた。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど校内の人材や子育て支援課・医療機関など外部機関と情報交換をしたり、助言を受けたりして、児童の支援に役立てることができた。 ・保護者アンケートの結果は、70.5%であった。特別支援学級在籍児童の家庭には取り組みを細やかに伝えることができたが、他の保護者や地域に対しては個人情報の取り扱いに関して配慮が必要なため、伝える内容に留意する必要がある。しかし、特別支援教育に関する相談窓口や関係機関等の情報発信や共通理解してほしい内容については、引き続き発信を続けていきたい。
		教職員	○定期的に全職員での児童の情報交換と適切な指導・支援方法の共通理解を図ることができたか。 ⇒気になる児童の様子、支援の方法等を記録に残す。 ○児童一人一人に応じた指導方法の充実に努めたか。 ⇒教職員アンケートで80%以上を達成する。 ⇒100% ○医療・福祉機関や教育センター等、児童を中心とした関係機関との連携ができているか。 ⇒教職員アンケートで80%以上を達成する。 ⇒91.7%	A		
		家庭や地域との連携	○児童、保護者、地域の方々への特別支援教育の啓発ができたか。 ⇒保護者、地域に対して、ホームページや通信等で発信し特別支援教育の啓発をする。 ⇒保護者のアンケートで80%以上を達成する。 ⇒70.5%	B		

4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

- ・評価項目をしぼり、アンケートの分析や考察によって達成状況を客観的に判断する評価方法は定着しており、適正である。
- ・アンケート結果をグラフ化し、昨年度の結果と比較しており、視覚的に分かりやすい。
- ・保護者には各種取組が設問式のアンケートになっているため、一部ズレがみられる。
- ・アンケート文書を配布するだけでなく、設問の意図や思いを口頭で伝える機会があれば、より精度の高いアンケート調査ができると思う。
- ・頻繁に学校を訪問したり子どもたちに接したりしていない者が評価する難しさがある。

5 評価の観点ごとの学校関係者評価

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価		
妥当である	過大評価である	過小評価である
○		
		<ul style="list-style-type: none"> ・自主学习は、児童が教師と対面せずに行うことから、より一層細やかな教師の助言や励ましが必要で、この関わりが児童の学習意欲へとつながると思う。自主学习における児童との関わり方を研修して頂きたい。 ・教職員の高評価に比べて児童・保護者の評価が低い。この差が生じた要因、また、昨年より結果が下がった要因を検証し、次年度の取組に活かしていただきたい。 ・保護者にどのような授業改善に取り組んでいるのかを伝え、理解を得て子どもへのフォローの協力を得ることが大事だと思う。合わせて、自主学习・宿題についても、その意図を児童が理解できるよう、また、保護者には家庭でどのようなフォローをしてもらいたいかを伝えることが大事だと考える。
○		
		<ul style="list-style-type: none"> ・先生方の工夫された授業の取組が児童にきちんと伝わり、児童も成果を体感評価しているのて、こうした取組を今後も継続していただきたい。 ・親子で取り組んだ学習で出た意見や感想をきめ細かく家庭へフィードバックされたことが、アンケート結果の向上につながったと考える。今後も、保護者会などの場を活用し、親子で取り組む意図を伝え、家庭と共有化して進めることが重要と考える。 ・ICTの活用によって特別支援学級の児童と通常学級の児童と一緒に学習することは、道徳だけでなく人権の観点からも評価できる。この取組が「特別」でなく「普通」のこととなるよう、さらに取組を充実させていただきたい。
○		
		<ul style="list-style-type: none"> ・「吉川っ子人権の小窓」は子どもたちに取組の思いが伝わり根付き、「吉川小人権配慮モデル」として定着してきたことを示しており高く評価できる。 ・児童と親だけでなく、家庭でも家族の中に人権学習の話題が広がるしかけを工夫して頂きたい。 ・親子で関わるものは参加率が高いが、人権講演会の参加率が低いのが気になる。働く保護者が多くなっている今、インターネット等を活用して講演会の動画配信し、参加できない保護者にも共有化できるようにしてはいかがでしょうか。
○		
		<ul style="list-style-type: none"> ・教職員全体で定期的な話し合いを持ち課題・対策に取り組まれていることは評価できる。 ・境界児童や配慮が必要な児童が増加している中、特別支援学級で行っている支援や配慮は、通常学級の児童にも十分有効であることから、通常学級における合理的配慮についての研修は、引き続き行っていただきたい。 ・通常学級の児童や保護者への情報発信・啓発についてはセンシティブなため、児童や保護者の意向をくみながら、学級単位の顔が見える場で、言葉を使って理解促進を図るのがよいと思う。

生活指導	○いつでも誰にでも気持ちのよいあいさつを習慣化するように継続した指導。	児童	○自分から気持ちのよいあいさつや返事ができているか。 ⇒児童アンケートで80%以上を達成する。 ⇒84.1%	A	A	・こどもたちから気持ちの良いあいさつができるように、学級担任だけでなく、携わる教職員全員で言葉掛けを行うなどして励行してきた。また、全校放送等を通じて、あいさつをがんばっている児童を褒めて伸ばすよう心掛けてきた。課題としては、高学年は肯定的評価が低学年に比べて少し低くなっており、引き続き気持ちのよいあいさつが子ども達からできるように取り組んでいく。 ・定期的な会議を通して、月毎に子ども達に関する生活指導の内容を教職員間で共通理解を図りながら、子ども達に挨拶などを意識づけさせることができた。 ・保護者アンケートの結果から、各家庭内であいさつの声掛けをしているのは86.1%であった。来年度も継続できるように、学級懇談会や学校だより等を通じて、保護者に協力を呼びかけていきたい。	○		
		教職員	○子どもに挨拶・返事・掃除・時間を守るなど生活を意識させることができたか。 ⇒教職員アンケートで80%以上を達成する。 ⇒100%	A					
		家庭や地域との連携	○子どもたちが、気持ちのよいあいさつをするように声掛けをしたか。 ⇒保護者アンケートで80%以上を達成する。 ⇒86.1%	A					
防災安全教育	○災害から自らの命を守るための学校・保護者と連携した防災訓練の実施	児童	○災害や日常生活にひそむ危険から、自分の身を守る方法を知っているか。 ⇒防災・安全に関するアンケート(3学期実施)の正答率80%以上の児童が全校生の8割以上を達成する。 ⇒94.7%	A	A	・毎月、実施している教職員による安全点検では、学期ごとに点検者を変更した。その結果、異なる視点から点検を行うことにより、気づきにくい破損箇所や今後破損すると考えられる箇所を見つけることができた。今後も継続することで、児童が安心して学習できる環境を整えていく。 ・引き渡し訓練、不審者対応訓練、地域防災訓練などを通じて、災害時に役立つ知識や行動について保護者や地域の方とともに学ぶ機会を持つことができた。次年度は消防署の協力を得ることで、消火器訓練などの実施も試案に組み入れる。 ・防災教育副読本「明日に生きる」や道徳教材を活用して、事前指導や事後指導も各学年で行い、どうすれば安全に避難できるのかを改めて確認することができた。 ・保護者アンケートの結果(95.2%)であるように、保護者の協力もあり、訓練や引き渡しなど円滑に行うことができた。	○		・統合によりスクールバスを利用することから通学途上の地域の方との触れ合いが減っている。あいさつや地域の行事に積極的に参加するなどして地域との触れ合いを大切にしていきたい。 ・「気持ちの良いあいさつ」については、教職員と高学年児童とのアンケート結果に差が出ている。あいさつの大切さについて道徳の時間に切り口を変えた話し合いを持つなどして対応策を見出し、教職員・家庭でも継続して声掛けをしていただきたい。 ・「困った時に先生や友達に聞くことができています」で高い評価が出ていることは嬉しいが、反対に少数ではあるが聞くことができない児童がいることが気にかかる。引き続き、児童・保護者・学校職員の良好な関係作りをすくと共に児童の困りごとを吸い上げる工夫をしていただきたい。
		教職員	○「明日に生きる」や道徳教材等を使って、自他の命を大切に指導を継続できたか。 ⇒年度内における指導を各学年で2回以上は行う。	A					
		家庭や地域との連携	○引き渡し訓練や警報時の引き渡しの際に、円滑に行うことができたか。 ⇒保護者アンケートで80%以上を達成する。 ⇒95.2%	A					
食育・健康教育	○健康づくりや体力づくりについて意識を持ち、丈夫なからだづくりをしようとする力の育成	児童	○給食を味わって残さず食べたり、体育や休み時間にのびのびと体を動かしたりしたか。 ⇒児童アンケートで80%以上を達成する。 ⇒87.4%	A	A	・食の細い児童や、休み時間は部屋の中で過ごすことを好む児童が一定数いる。教職員からの言葉掛けやクラス単位での取り組みを増やしていくことが必要であると思われる。 ・教職員アンケート(93.3%~100%)の結果からも、望ましい生活習慣を意識づけるような指導を行ってきたい。また、休み時間を確実に確保する時間厳守の意識を教職員が持てるように引き続き心掛けたい。 ・家族で食についてや運動について学校での様子を話す機会が少ないように思われる。給食中に児童が放送する「情報タイム」の放送時刻を食事時間に合わせるなど情報を届ける工夫をしていく。それによって、家庭での会話に繋げていきたい。	○		・高学年や保護者の評価が低い。今年度の取組を整理し、改めて「食の大切さ」「体を動かすことの大切さ」を科学的な根拠も取り入れながら、機会あるごとに伝えていただきたい。 ・HPに給食のコーナーがあれば、献立や子どもの様子が分かって、食に関する関心が高まるのではないだろうか。 ・健康づくりや体力づくりが習慣化するよう、三木市の健康アプリのようにできたらポイントがたまっていくような取り組みを行うのも励みになると思う。
		教職員	○朝の健康観察や給食、学習等の時間で、望ましい生活習慣(食生活・健康づくり・体力づくり)を意識づける指導したり、授業時間を守って遊ぶ時間を確保したりしたか。 ⇒一日一回以上、指導したか。教職員アンケートで80%以上を達成する。 ⇒96.7%	A					
		家庭や地域との連携	○子どもの健康・体力づくりの取組に理解が得られたか。 ⇒学校での体を動かす活動(外で遊ぶ・体育・水泳・マラソン等)や給食について、家庭で話しているか。保護者アンケート(変更する)で80%以上を達成する。 ⇒80.0%	A					
教職員の資質向上	○研究テーマ実現に向けた授業実践、そのための研修計画の作成・実践 ○ふるさと教育の充実に向けた地域との連携の在り方の構築、吉川小独自の教育課程の創造	児童	○児童は学校生活が楽しいと思っているか。 ⇒児童アンケートで80%以上を達成する。 ⇒89.4% ○児童は授業が分かりやすいと思っているか。 ⇒児童アンケートで80%以上を達成する。 ⇒85.1%	A	A	・子どもたちが主体的に学習に取り組めるように、授業の導入を工夫したり、タブレットを活用した個別最適な学びを積極的に取り入れたりすることで、児童の興味関心を高めることができた。 ・校内外の研修会に積極的に参加し、自らの授業について考える機会を得ることができた。今年度は「吉川小新築型の授業づくり」をテーマに、ICTの活用、個別最適な学び、協働的な学びを意識した授業づくりについて取り組んだ。今後も研修等で得た知識を活かし、授業力向上につなげていく。 ・吉川町まちづくり協議会、JAみのり、吉川町農産物生産者共同体「ようしゅう会」、三木市ゴルフのまち推進課等との連携を図り、多くの体験活動、探究学習を進めることができた。これらの活動を通して、普段の生活や学習に生かしたり、またふるさと吉川の「良さ」に気づき、地域に発信できるような教育活動につなげていく。	○		・休日に行われる町や地域主催の行事への教職員の参加は任意であると思われるが、自身を向上させ、学校以外での子どもの様子が見られるよい機会でもあることから、積極的な参加が望まれる。 ・教職員が相互に授業を見合う校内研修の取組は評価できる。合わせて外部研修で得た知識を自校で実践する際にも他者に参観してもらい、意見交換の場を持って自校の実態に合うものにしてもらいたい。 ・小中一貫校を視野に入れ、小中の教職員のつながりをさらに深めてもらいたい。 ・地域との触れ合いは充実していると思う。カリキュラム内で行うという枠組があり大変だが、ふるさと吉川の良さに気付ける教育に期待したい。
		教職員	○他の教科担任、担任の授業を積極的に参観し、授業力向上について学び合えたか。 ⇒グループ研修以外に2つ以上の参観を行い、意見交流する。 ○センター主催の研修会等に積極的に参加することができたか。 ⇒担当である研修会以外に3回以上は参加する。	A					
		家庭や地域との連携	○キャリア教育の充実を図り、地域の産業や公共施設等に出向き、ふるさと吉川の取組に積極的に参画することができたか。 ⇒地域のゲストティーチャーを招いての学習計画を年間1本以上行う。→全学年で達成	A					
家庭・地域との連携	【HP等】 ○プライバシー保護に留意した、子どもの様子や作品等の学校通信・HPへの掲載 【保護者】 ○オープンスクールやPTA活動に参加しやすい環境づくり 【地域】 ○オープンスクールや体育的行事等への参加呼びかけ	HP等	○HPの随時更新、充実を図ることができたか。 ⇒概ね、週に数回HPの更新を達成する。	A	A	○		・保護者評価ではきちんと情報は伝わっているので、今後もHPや学校通信の情報発信に努めていただきたい。ただ、HPや学校通信の情報発信が形骸化しないよう、また、教職員の負担が増すことのないよう、適時適切なタイミングでの発信を行っていただきたい。 ・高学年の「地域に出かける学習」評価が昨年度より下がっている。児童の意見を取り入れるなどして、児童にとって有意義と感じる学習活動にしていきたい。 ・早めに行事連絡を行うなど、PTAとの協働体制を確立するための工夫が見られた。PTAの意見を取り入れようとする姿勢は、保護者の信頼を得ることにつながっていると考ええる。	
		教職員	○事前案内をできるだけ早い時期に配付し、オープンスクール等の出席率を高めることができたか。 ⇒保護者の出席率80%以上を達成する。 → 約92%	A					
		家庭や地域との連携	○本年度から始まった学校運営協議会の各委員等に可能な限り学校行事等へ出席いただく。(お一人概ね年3回程度) → オープンスクール、運動会等に多くの方へ出席いただいた。	A					